

北 どころ

第109号 2025年4月1日（毎月1日発行）

中国5県絶景の旅④

山口県萩市・黄檗宗護国山東光寺

—— 団結力誇る石灯籠の軍団

長州山内氏の菩提寺である常閑寺から2、3キロの場所に、高杉晋作の墓所である東行庵がある。幕末の長州藩の優柔不断さに抗議するように、晋作は10年のいとま乞いをし、鬻（まげ）を落とし、僧形になった。そのとき「西へ行く人をしたひて東行くわが心をば神やしるらむ」と詠み、

東行（とうぎよう）と号した。「西に行く人」は晋作が敬愛する西行法師のこと。西は西方浄土を意味し、死に向かうという隠喩。その反対の東に行くと言ったのは、江戸の幕府打倒を暗示しているように、いかにも直情径行、破天荒な晋作らしい。

東行庵の駐車場に売店があり、「晋作餅」が名物。こし餡を包んだ焼き饅頭で、それを赤紫蘇でくるんだものと2種類ある。上品な甘さで、漬けた紫蘇葉の塩気もいい感じ。小腹が空いていたこともあり、その場で3個食べてしまった。



東光寺の「毛利氏廟所」。石灯籠が整然と並んでいる



東行庵の高杉晋作陶像。備前焼の伊勢崎陽山作

高杉家のルーツは、広島府の安芸高田市吉田にある。司馬遼太郎の「街道をゆく―芸備の道」によると、安芸にいたるときは武田姓。鎌倉時代に関東御家人たちが累次に西方の先進地帯に守護や地頭として送り込まれた。武田氏や毛利氏も然り。勢力争いで毛利氏の軍門にくだった安芸武田氏は、今の三次市の東南方にある高杉という村

に家臣として移住、その地名を称した。

東行庵は下関市吉田町にある。晋作が創設した奇兵隊の本拠地があった場所で、遺言によって当地に埋葬された。高杉家の祖先である武田氏が安芸の吉田の領主だったという偶然が興味深い。下関の吉田の領主だった山内梅三郎（通称、19代当主）が、奇兵隊の総督を務めている。奇兵隊が幕府軍と戦った時、長州山内氏の菩提寺である常閑寺に野戦病院が置かれ、負傷兵が収容された。境内には、奇兵隊士6名の墓碑がある。

奇兵隊は、藩士以外の市民兵を募ったという点で画期的だった。正規の藩士の隊よりも強かった。防長の地への滅封により農民になった毛利の家臣の多くが奇兵隊に参加、ただの烏合の集ではなかったのである。

高杉東行記念館の裏山（清水山）の公園に、晋作の墓所がある。正面の墓石にはただ「東行墓」とだけ刻んである。公園をさらに上ると、晋作の陶製の立像が高所から睥睨している。「動けば雷電の如く、発すれば風雨の如し」、晋作と共に戦った伊藤博文が晋作を評した言葉である。剣豪でもあった晋作像の剣は太く長い。結核を病んで27年と8カ月の生涯だった。その日は下関で一泊、翌朝、萩を目指した。下関インターチェン



チラシに載っていた幕末の萩・堀内地区の古地図



武家屋敷跡の様々な塀がまだ残っている

ジから中国縦貫道路に入って、十文字インターチェンジで高速道路を下車、小郡萩道路に入った。小郡萩道路は自動車専用道路だが、一般道扱いで無料なのありがたい。9時半ぐらいに出発したのだが、萩まで2時間もかからないで到着。車の旅は快調だったが、給油を先延ばしにして冷や汗をかいた。結局、萩市街まで給油できずに、ガス欠によるJAFへの救援要請を覚悟した。見知らぬ土地での運転は、寄り道してでも早めに給油する必要がある。

長州毛利氏の菩提寺である東光寺に向かった。朱塗りの総門をくぐり境内に入る。「護国山」の額が掲げられている。料金所は無人で、300円の手振料を納めてしばらく進むと、「三門」がある。中央の扉の左右にも扉があって三門。中央の扉だけが開いている。「解脱門」と書かれた額が掲げられている。

裏手にある「毛利氏廟所」を訪れた。法要が営まれているのか、方丈の方から読経の音が聞こえてくる。こもりとした鎮守の森に囲まれた光景に、しばらく圧倒されていた。500基を超える石灯籠が、整然と並んでいるのである。家臣より献上された石灯籠で、なんだか中国の始皇帝陵の兵馬俑を連想してしまった。石灯籠の軍団だ。この結束力で倒幕を果たしたのだと思った。

世・7世などを並べて穆とよぶ。わたしは、東光寺と大照院を同格に扱うという意味合いもあったのではないかと推察している。

三門は黄檗宗という禅宗独特の様式で、本堂を「涅槃」、悟りの境地に見立て、そこに至るために通る三つの門「空門、無相門、無作門」の三解脱門という意味合いがあるという。三門をくぐって参道を進み、大雄宝殿（本堂）の前に出る。見た目だけで、かなり傷んでいるのがわかる。使用されている気配はない。こうした文化財の維持・管理には膨大な費用がかかる。300円の拝観料では焼け石に水なのだろう。参拝して、

個人的な興味としては、古地図の「赤川仁右衛門」が気になる。道を挟んで山内家と面している。山内家よりも敷地が狭いので格は落ちるのだろうが、どんな人物&役職を担っていたのか知りたいものだ。

その夜、ホテルの露天風呂に入りながら空を見上げた。見事な満月だった。平日ということもあって他の客はいない。湯舟を独り占め、しばしの大名気分を味わった。



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「西行と清盛」

嵐山光三郎 著 中公文庫

長身で筋骨隆々、武術の達人だった西行が、出家したあとでも清盛との交友を保持して、まつり事の裏舞台で暗躍する。イメージとかなり違うが、当時の世相やシステムがわかりやすく解説されていて理解できた。天皇や上皇が争う不安定な政治状況で、当時はそうした政争から身を護るための出家が流行っていたのだ。草庵建築を生業（なりわい）にしている僧もいたという。



和歌もまた重要なスキルで、本音を隠した和歌をやりとりすることで、相手の心を推察する。隠喩が多用されていて、そこが和歌の判りにくさであり、奥深さである。日本人の人格形成にも影響した？

「家康、江戸を建てる」

門井慶喜 著 祥伝社文庫

家康殿には、関八州を進軍する――、天下人の秀吉の命令を、家康は拒否することができなかった。そのかわりに、東海五か国の所領地を差し出せという。丹精込めた美田を、未開の泥沼と交換するようなものである。その泥沼を、家康は大都市「江戸」に作り変える。

本書は家康の命により、江戸の土台を築いた男達の奮闘が描かれている。大河の流れを変える治水、流通貨幣の製造、上下水道の整備、江戸城の石垣、天守閣建設、5つの物語。今は亡き浅草の伯父が、昔の新宿は田畑ばかりの田舎だったと言っていたのを思い出した。都市は変貌する。東京は今でも膨張し進化している。



「ブルーピリオド」

山口つばさ 著 講談社

勉強や遊びをそつなくこなし、高校生活をそれなりに楽しんでた矢口八虎だが、物足りなさも感じていた。ある日、美術室に置かれた絵に魅了される。美術部に入り絵を描き始めた八虎は、本格的に絵の勉強がしたいと、最難関である東京藝術大学の絵画科を目指すことに。現役で受かる確率は実質 200 倍！



八虎は受験のための予備校に通うようになる。絵の基本から道具の使い方まで、読者は八虎と一緒に勉強する。予備校に通う生徒が多士済々で、絵に青春を捧げた群像劇でもある。古本として3巻まで引き取り、あとはネットカフェで読んでいる。現在も連載中で、16巻まで出ている。

どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

ハロー注意報⑬

——進駐軍がいた町のはなし

お稽古と舞台

松岡初枝

今でこそ丈夫な体で働き続けることができていた私だが、小さい頃はとても弱々しい子供だった。祖母は体を強くすることが大事だと思っ、日本舞踊を習わせようと決め、知り合いの人の子や孫達を誘うことにした。どうせ習うのならできるだけ

い師匠に付けようということになり、西川流の家元、扇造師から紹介された西川扇十郎師に付くことが決まった。

扇十郎師はとても優しくそんな中年女性で、東京の吉祥寺がお住まいだった。七、八人の弟子が集まれば出稽古してくれるということにな

った。すぐに七人の子供が弟子入りし、毎週二回のお稽古が始まった。弟子の中で私が最年少の三歳、あと五歳から九歳、ちょうど七人の子供達だった。

稽古初日、師匠から弟子入りの証として西川流の舞扇が渡された。「扇はお武家さんの刀と同じなのよ。いろいろな使い方があって、いつも帯の左側に差しておいてね」。緊張しながら師の話聞いてた。私は小さいながら皆と一緒に挨拶の作法から習う。ま



『妹背山』の舞台。一番左が橘姫の私（著者）

ず右手で扇を帯から抜き自分の前に置く。「お師匠（つしよ）さんお願いします」。「ありがとうございます」。「必ず扇を置いて深くおじぎをする。お師匠は「扇は結界を作るものなの。お稽古は神聖な気持ちで互いに向き合うことですよ」と教えてくれた。子供だからといって甘やかすこと無く、まずは基本の型をみっちり仕込まれた。手の動き、脚腰の型や目の動き、息づかい、あらゆる動きに対応できるようにになるまで、曲に合わせて踊ることは無かった。

一年が過ぎた頃、師匠宅へ行って東京の弟子達と合同稽古があり、いつもは優しい師もこの日は本当にピシッとした様子で、皆真剣な顔で稽古した。東京の弟子達は多彩な人々だった。松竹専属俳優の坂本のおじさん、赤坂で幫間（ほうかん）をしている永山花丸おじさん、吉祥寺に劇場がある前進座の役者さん達、芸者さんもいた。皆本気で稽古した後、とても楽しい人達だった。

坂本のおじさんは映画撮影の裏話。「〇〇という女優は強い人なの。映画の中とは正反対かな...」。「あらそうですか」祖母は実体なんてそんなものだと言っていた。永山花丸さんは、政界や財界の人達のお座敷での話。

「皆さん仕事を離れると楽しい人でねえ。お酒も強いし気前もいい。チツプ貰ってありがたや、ってなもんです」花丸おじさんは稽古着の浴衣の下に七色のステテコを身につけていた。「おじさんの商売道具、桃色、浅黄、萌黄...、着物や季節に合わせてるのよ」「きれいねー」と言うと「ステテコがネ！」と笑った。

私達も真夏のお稽古には「おこし」の下にステテコを身につける。親や祖母達が子供のサイズに縫ってくれた物で、木綿のステテコは汗を吸ってくれるので、必要不可欠な物なのだ。

何年か過ぎ、いよいよ東京の劇場で「本舞台」と呼ばれる発表会に出ることになった。小学二年の私は三年生のノブ子ちゃん、ミエ子ちゃんと三人で『妹背山（いもせやま）』という常磐津（ときわづ）の大曲を踊った。私は『橘姫』、ノブ子ちゃんは『求女（もとめ）』という男役、ミエ子ちゃんは『お三輪』という恋敵。一人の男を二人の女が火花を散らす話で、まあ意味あいなどよく解せぬまま踊った。セリフもあって緊張したが、喝采を受けてほっとした。それから二年ごとに『年増』、中年女性の話でこれ又大人の内容。『かむろ』という



『京鹿子娘道成寺』の所化姿。
前列左から二人目が私



『鏡獅子』の小蝶の私

長唄、これは吉原のかむろの正月風景。『鳥羽絵』という清元の曲は、武家屋敷の中元。又名取披露のお手伝いで『京鹿子娘道成寺』の所化（しよけ）さん（小坊主）、『鏡獅子』の小蝶など。一心に稽古をし、舞台を務めた。

本舞台の直前には“合わせ”という予行練習がある。三味線、唄、笛、鼓、太鼓など、それぞれの師匠達が地方（ぢかた）といって生演奏をしてくれる。そのおじさん達と踊子の合わせをするのだ。「はつえちゃん、おじさんが鼓をポンと打つのと同時にトンと足を踏んでくださいよ…。はいよーお、ポン！ それでようございます。

本番も今のようにネー！。今思うと子供が踊るのにも本当に真剣に向き合ってくれ、大人と接するのと同じように言葉をくずす事がなかった。師匠達の姿は立派だったと思う。

前進座劇場へも賛助出演したりと十歳程になると一人前の踊り子として扱ってもらえるようになった。ジョンソン基地の祭りにも呼ばれ、多勢のアメリカの人の前で踊り、沢山のプレゼントや菓子を買った。その時初めてコーラを飲んだが、皆一斉に「まずーい！ 変な味！」と言ってしまった。この頃はまだ日本国内でコーラは売られていなかったで、こんな味がする飲み物をアメリカの子供

が飲むなんて信じられないと思った。中学生になる直前、師匠は「クラブ活動に入るなら、ボールを使うところはいけません。手が汚くなるのよ。突き指したら大変！」と言ったが、同じことを祖母や母にも言われた。

「はっちゃん、突き指するようなクラブはダメよ」「もう、好きにさせてよ！」と反発した。将来美容師になった時に、お客の顔や髪に触れる。祖母や母は、曲がった指で仕事するのは失礼だしプロとして失格という理由なのだ。しかしそう言われたら尚更反発した私は「一年間だけソフトボール部に入る！」。野球好きの私はソフト部に入ったが、幸い突き指は

しないで済んだ。今私の指は曲がりもせず真つすぐに保たれている。あの頃大人達が口をそろえて言ったことが、今となれば正解だったのかなあと思う。

当時は思い出してみると、ずいぶんお金を使って貰ったという思いが強い。幼い頃から大人の世界に接して来た。勉強のため、と言って祖母は歌舞伎座へも連れて行ってくれた。お家元主催の夏の夕涼み、目白にある椿山荘での“螢の夕べ”へも行った。広い庭園に螢が飛び交い、小道にあちこちに寿司や和菓子などの屋台が並び、好きな物を食べられた。なんとという贅沢をさせて貰ったのかと思わずにはいられない。

幼少のころから日本舞踊の稽古をしたせいか、今もって体幹がしっかりしていると思う。体が弱かった私はずっと元気で働いていられるのも、あの大変な修行があればこそと思えてならない。嫌々ながら通いはじめた稽古、緊張の連続だった舞台。あの頃出合った多くの大人たちの優しさや凛とした佇まい。学校での勉強とはひと味異った人間としての基本を見せてくれた人達の姿が今も目にかぶ。

文吾さんの顔を見て、思わず「久しぶりですね」と言ってしまった。一週間ぐらい姿を見せなかったらうか。そういえば、青春18きっぷを使って気ままな旅に出ると言っていたことを思い出した。

「これ、お土産」

ジャケットのポケットから取り出した缶コーヒーを、カウンターの上に置いた。ジョージアの缶コーヒーだ。

「うん？ 近くの自販機で売ってるやつじゃないですか？」

文吾さんが人差し指を立てて、「チッチッチツ……」と顔の前で振った。

「缶の絵を見てみろよ」

白と黒のぶち模様の乳牛、ホルスタインだろうか。流水の天使と呼ばれるクリオネ、テレビのコマーシャルで見たことがある。そして翼をひろげて飛翔する鶴……、そのとき、刻印風にデザインされたロゴマークの中の文字が目に入った。

「北海道限定……、わざわざ北海道まで行って、買って来たんですか？」

文吾さんがエヘと笑った。いかん、文吾さんのペースになっている。

「列車で隣に坐っていた高校生が持ってたんだ。北海道から来たのか

い？と尋ねたらびっくりしてね。顔に書いてあるよと言ったら、手のひらで顔を拭いてね。純情な子だったな」

高校の卒業記念で、青春18きっぷの旅をしているのだという。

「それで、この缶コーヒーをまき上げたというわけですね」

「失敬な。旅の、そして人生の先達としていろいろレクチャーしてあげた

えば安いもんだ。大分港を夜の七時に出て、明朝の六時二十分に神戸に着く。夕飯を食った後で、本でも読んで寛ぐかと通路にあるソファに坐ったんだ。窓から瀬戸内海の夜景を眺めることができる。

少し離れた場所に、四十ぐらいの女性がいた。バッグから取り出したものを見て驚いたよ。鮮やかなガラス細工のビードロなんだ。長崎のお

土産だろうな。細い吹き口から息を吹きかけるんだが、音が鳴らない。何度か繰り返し返したが、あきらめてバッグにしまった。

ビードロ

あきふゆひこ
亜木冬彦

現代御伽草子 ⑩〇〇

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

お礼に、進呈してくれたんだよ」

「まあ、そういうことにはしておきましょうか。ところで、何かおもしろいことがありますか？」

文吾さんがニヤリと笑った。

電車ばかりで腰が痛くなったんで、フェリーに乗ったんだ。さんふらわ

あばーる号、七階建てで展望風呂まであるから、ホテルに泊まったと思

を取り出した。「用意がいいですね」と言うと、「介護施設に勤めているんです」と教えてくれた。

吹き口を啜えて、逆に息を吸い込んだ。ペコンという音がしたよ。今度は息を吹きかけると、ホッペンときれいな音が鳴った。底のガラスがまだ固くて、ふくらんだままになっていたんだな。ビードロを彼女に返すと、何度も音を出して笑顔を見せた。笑顔美人で、魅力が倍増だ。

やはり、長崎に行った帰りなのだろう。施設で亡くなった人の身寄りを探すのが目的だった。その人が保護されたのが、大分から神戸に向かうそのフェリーの中でね。かなりの高齢の女性で、認知症が進んでいて、自分の名前もわからない。中年の男と一緒にいたのを見たというスタッフがいて、船に捨てられたんじゃないかと言う人もいた。

ビードロの女性、星野ゆりさんという名前なんだが、彼女が勤める神戸の介護施設に、保護された女性は収容された。仮の名前がつかのあかり、そのあかりさんの唯一の持ち物が古い料理本で、その本の見返しに、平仮名で名前が書いてあったんだそう。彼女の本名かどうかはわからない。ちなみに、警察に捜索願いが



出ている行方不明者のリストに「つきのあかり」はいないし、年恰好で該当する人物はいなかったという。

どうして長崎なのか？ あかりさんが施設の屋根のツララを見て「ビードロ」と言ったのをゆりさんが聞いていたんだ。ツララのことをビードロと呼ぶ方言は長崎しかない……、彼女、熊本出身なんだよ。それで長崎まで行って、「つきのあかり」の身元を調べた。どういう字を書くのかわからないが「つきの」は珍しい名字だからな。

最初は役所で調べてもらおうと

したんだが、個人情報保護法で駄目だと言われた。それで、古本屋を見つけて、古い電話帳はありませんかと尋ねた。元々売りもんじゃなし、欲しい人もいないだろうから、置いてないよな。でも、店主が電話帳のコレクターを知っていたんだ。全国の古い電話帳を集めている。ゆりさんは事情を話して、長崎県内の電話帳だけ見せてもらった。「つきの」姓だけ抜き出して、片っ端から電話をかけたんだ。

一件だけ「従兄の離婚した奥さんかも知れない」という反応があったそうだ。息子がひとりいたらいい。でも、連絡先は知らないと言っていた。その従兄もずいぶん前に死んでいるらしい。それで時間切れだ。ゆりさんは自分の有休を使って、自腹で長崎まで行ったんだ。ビードロは、共同墓地に埋葬されたあかりさんへのお土産だ。ふるさとの音色を聴かせてあげるんだと言っていた。

「ゆりさんがそこまでしてあげる理由が何かあるんですか？」

文吾さんの話を聞いていて、不思議に思ったことを口にした。

「亡くなった母親に面影が似ていたんだそうだ。心配ばかりかけて、親

孝行らしいことは何もできなかったと言っていた。介護の仕事をするようになったのも、それが理由のようだね」

なるほどと頷いた。

「もう一つ、あかりさんから受け継いだ料理の本がある。『毎日のお弁当』というタイトルなんだが、細かい書き込みがたくさんあるんだ。自分なりに工夫を重ねてたんだろな。ゆりさん、料理は苦手だったんだが、あかりさんの本を参考にして小学生の息子の弁当を作るようにしたら大好評だそうだ」

「あかりさんも自分の子供の弁当を作っていたんでしょうね」

「シンパシーを感じたのかな。ゆりさん、シングルマザーで絶賛奮闘中だ！ 料理の本を何冊か送ると言ったから、よろしく頼む」

文吾さんがおもむろに、カウンターのジョージアの缶コーヒーに手を伸ばした。躊躇なく栓を開けると口に運んだ。

「それ、お土産じゃなかったんですか？」

「うん？ 空き缶は置いて帰るよ。メルカリで売れるかも知れんぞ」

満足そうに飲み干した。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（5月より日曜日も休みます）
- TEL：090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30（昼食休憩 12:00～12:30）

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

第四部 祭事を見る

五月十八日 光秀公正辰（しようしん）祭

明智光秀は、織田信長を倒したこ

とで逆臣の名を遺している。しかし、彼は丹波に於いて諸豪を平定し、福知山城を修造し、由良川に堤防を構築し氾濫を防ぐなど、種々善政を施していた。生前、郷民に慕われて居たものが冤罪を蒙（こうむ）つたとして、光秀を祭神として忌日に京都府福知山市の御霊（ごりょう）神社で行なわれる

霊祭である。

五月二十八日 両国川開

川開の多くは、暑さも募り水に親しむことの多くなるこの時期に水の災厄を祓い、事故者の霊の供養をしようとする川辺の祭りが納涼の風と結び付き、さらに打上げ花火などの華やかさを取り入れていった。その最も有名なものが、東京両国の隅田川で行なわれる川開である。江戸時代、隅田川では旧暦のこの日から三ヶ月間が夕涼みの期間とされその初日を川開といった。

屋形船や伝馬船が川を埋め、両岸には人垣ができて、華やかに花火が打上げられていた。

六月一日 富士山開

昔、山は神聖な領域として扱われており、入峰修行をする山伏や僧たち以外は立ち入ることが出来なかった。無理に入れば天狗に襲われるといわれていた。

日本最高峰の富士山でも、他の山と同様に山開きの日取りを決めて、一般人に登山を許したのが山開きの始まり。江戸時代中期になると、山頂の神様にお参りする講中登山が流行した。

六月十五日 江戸山王祭（さんとうまつり）

六月七日から十六日にかけて行なわれる日枝（ひえ）神社の祭礼。徳川の時代、江戸城内に入御した御神輿（おみこし）を、二代将軍秀忠が拝して以来、歴代将軍が上覧拝礼する「天下祭り」として盛大を極める。江戸三大祭（山王祭・神田祭・深川祭）の筆頭となった。

六月十七日 巖島の管弦祭（かんげんさい）

旧暦六月十七日の夕暮れから夜にかけて行なわれる。平安時代から続く巖島神社の神事である。

平安貴族が池や川に船を浮かべて雅楽を演奏する「管絃遊び」を取り入れて、平安時代（七九四〜一一八五年）、平清盛が始めたとされる。この時代、巖島は島全体が神とされ、人が住むことが許されなかった。そのため、対岸の地御前神社から巖島神社まで管絃船（版画参照）で管絃を合奏する神事を行なっていた。鎌倉時代以降、島に人が住むようになってからは、現在のように巖島神社から管絃船が出御し、地御前神社を経由して還御（かんぎよ）するようになった。

六月二十七日 大山詣（おおやまもうで）

神奈川県伊勢原市大山の大山詣は江戸時代、宝暦（一七五一〜六四年）の頃から盛んになった。六月二十八日が初山（はつやま）で、七月十七日まで登拝が許されたが、特に七月十四日から十七日の間を盆山といい、各町内が講をつくって参詣した。鳶（とび）などの職人たちが、巨大な木太刀（きだち）を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。



ヨーロッパ23日間「卒業旅行」(七)

マック☆ヤマザキ

2月24日土曜日、フランクフルト
→ハイデルベルグ。

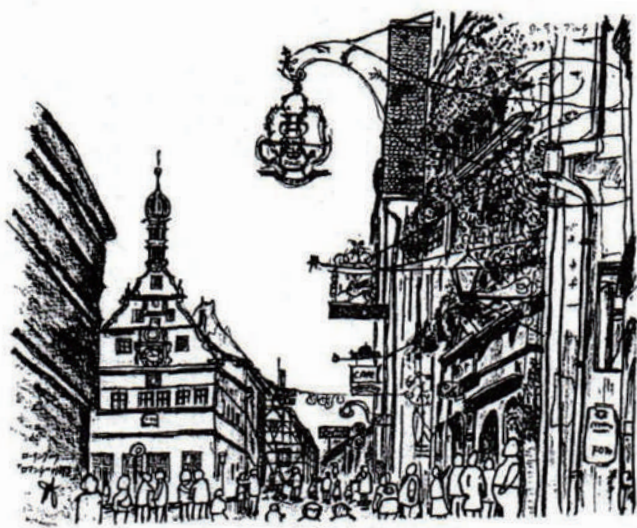
フロントデスクの女性職員が心配
顔で聞いてきた。305号室の女性
が日本への電話代が高額になってい
る。果たして払ってもらえるのか確
かめてくれないか? その場で女子
学生に電話するといとも簡単に、「も
ちろん払いますよ!」答えたので、

その旨をその場で彼女に伝えると、
安心すると同時に“お金持ちなのね”と
感心していた。

先日エールフランス機で紛失した
Hさんのスーツケースが見つかった
と連絡があった。ハイデルベルグに
向かうバス車中で伝えると、みんな
が拍手してくれた。旅行していると、
一人の運も、全員の運に関連するよ
うに思え、内容によっては共
有してグループの結束に役立
つことがある。

ハイデルベルグは、歌劇の
舞台としても有名だ。カール
ブルク公国の公子、カール・
ハインリッヒがハイデルベル
グ大学へ遊学して、このネッ
カー川に面した美しい町の下
宿でケーティと仲良くなり楽
しい時を過ごすのが、養父の死
により大公に就くことにな
り、彼女と別れて故郷へ呼び
戻される。その後再びハイデ
ルベルグを訪問してケーティ

ローテンブルクの街並



に再会するまでを描いた戯曲。日本
の宝塚歌劇で「アルトハイデルベル
グ」として上演された。

ネッカー川沿いのレストラン「メ
リアン・ステュッペン」で昼食。先
日パリのホテルに到着した時、間違っ
たホテルの名前が知らされており混
乱した。そのお詫びとしてランドオ
ペレーター(地元手配業者)が、今
日の昼食を提供してくれたのだ。学
生たちは大喜び!

このレストランの前庭に、桜の花
が七分咲きで咲いていた。最初は、
今時ドイツで桜の花なんて……と疑
心暗鬼で、ホテル従業員に聞いたら
「チェリー(さくら)」と答えてくれた。
まだ肌寒い気候なのに、異国で“桜
の花”を見ることが出来る幸運……。
しかし、帰国後に調べたら、アーム
ンドの花であると分かった。

翌日の朝食は、アメリカン・ブレッ
クファーストのジュース、ミルク、コー
ヒー、紅茶、卵料理、ハム、チーズ
を食べる客を横目で見ながら、我々
は固いパン、コーヒー又は紅茶のみ
のコンチネンタル・ブレックファース
ト。

今日は“ロマンチック街道”を旅
する。中世の時代(日本では、鎌倉・
室町時代)ドイツとイタリアを結ぶ

重要なルートだったが、工業化の波
に遅れ開発もされなかったもので、古
い町並みがそっくり残った。そこに
目を付けたドイツ観光局が「ロマン
チック街道」と言う新しいコンセプ
トで世界の観光客を呼び込んだ。

街道沿いに点在する中世都市、美
しい城(ノイシュヴァンシュタイン
城は白雪姫のお城ともいわれてい
る)。日本での距離に例えると、東京
→大阪ぐらいで約366km、屋根瓦
の色はオレンジ色に統一、商店も店
内を連想させる鉄製の象形看板が軒
下にある(スケッチ参照)、落ち着い
た雰囲気。

ローテンブルクの日曜日は、オフ
シーズンのせいかわ、レストランをは
じめほとんどの店が閉まっている。
マクドナルドだけは開いている。助
かった。格安の学生ツアーなので、
こちらで用意するのは質素な朝食だ
けなのだ。

今夜のホテルは、「アイゼンフット」
と言って「鉄の兜」を意味し、外観
は三角形をしている。部屋の内装が
違うので、学生たちは部屋を巡り歩
いて品評会を開いていた。私の部屋
にも遠慮なく入ってきて、壁紙が少
女趣味だとか、風呂はどんなのか
と“視察”していた。

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

灯台の直立不動青岬

近藤 昌平

マスクしてマスクの顔と話しけり

富久光

啓蟄やスポーツセンター人数多

片岡 正人

春浅し目蓋まぶたとじれば息吹あり

隆愚

六十年前の振袖卒業す

大槇 三代子

地下街に雀の迷う浅き春

寺内 龍二

店開けて飛影鮮やか 燕つばくろめ

赤川 冬人

淡雪の降る暮れがたは人気無ひとけく

松岡 初枝

早じまいして豚汁つくる

投稿&寄稿

候のことば

隆愚

「穀雨」

暦の二十四節気で、四月二十日から五月四日頃を「穀雨」と言います。穀雨とは、沢山の穀物をうるおす春の雨が降る頃の事。この季節の終り

には、夏の始まりを告げる八十八夜が訪れます。

穀雨の名にこめられている様に、春の雨は、作物にとって恵みの雨です。それだけにこの時期には、さまざまな雨の名前があります。穀物を育む雨を瑞雨（ずいう）といい、草木をうるおす雨を甘雨（かんう）といっています。

春の長雨は春霖（しゅんりん）といっています。早く咲いて、と花に促す催花雨（さいかう）。菜の花が咲く頃に降る菜種梅雨。長く降りすぎて、ウツギの花が腐ってしまうほどという卯の花腐（うのはなくた）し。百穀をうるおす百の雨など、様々な名前があります。

松尾芭蕉

「週休三日」

赤川仁洋

あるユーチューブの動画を見て、なるほどと認識を変えた。忙しいときに無性に他のことをしたくなる。なまけ癖だと思っていたが、遺伝子レベルで組み込まれたりリスク回避のシステムだというのである。食料が乏しかった原始の時代、生命を維持するために体力を温存しようとする本能が「なまけ癖」の正体。

その本能に負けてしまったのか、二月の休業期間の本の在庫整理は、思うような成果は出せなかった。猛烈な寒さで腰痛が悪化、立っているだけでも辛いので、椅子に腰かけて休息する時間が多くなる。窓をつぶして壁一面に柵を設置したが、本の整理までは手が回らない。体力低下

と時間の少なさを痛感。

年中無休で年寄りが帳場で居眠りしているイメージ……、実際に古本屋を開業してみると、雑務が多い仕事であることを実感。ネット販売は原則無休だし、本誌の制作もある。そうした雑務も楽しいと自分をごまかしていたが、絶対的に時間が足りていない。

日曜日も定休日にすることに決めた。これで日、月、火曜日と三連休で週休三日。日曜日の来客は少ないが、他に開いている店がないので、遠方の旅行者が迷い込んでくることがある。そうした“お助け小屋”を任じていたが、仕方がない。

四月は告知に努めて、週休三日は五月開始。よろしくお願ひします。



どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

— 硬式テニス参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

場所：三次運動公園の屋内&屋外コート

- ・火曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・水曜日 (9:30 ~ 12:00)
- ・土曜日 (10:00 ~ 12:00)



《情報 & 原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室 & 講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター (現地記者) 募集!

※応募先はどら書房・赤川まで。
掲載は無料です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家 (徳岡佛性坊) として多彩な
活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品
の展示販売を、どら書房の一角でしていま
す。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を
展示しています。あなたのお気に入りの逸
品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意!

黒ニンニク好評発売中! (どら書房店内にて)

- ・青森産ニンニクホワイト六片使用。
- ・甘みと適度な酸味、ニンニク臭さは
ありません。
- ・ポリフェノール含有で、抗酸化作用、
滋養効果を期待。

80g 入り：500円

※増量ジャンボニンニクもあります。

「ぐんぐん伸びよう会」

(教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

幼児教育の必要性についての Q & A

Q: やはり幼児のうちから、いろいろとはたらきかけた方が良いでしょうか。

A: 人間の脳は、3歳までにほぼ60%、6歳までにほぼ80%できあがってし

まうと言われています。この大切な時期に、お子さんがいろいろなものに興味を持てるように語りか
けを多くしたり、注意をうながしたり、といったように、ちょっとした大人のはたらきかけが大切ですね。

無料体験学習受付中!! お気軽に問い合わせてくださいね。対象者:0歳~小学6年生



編集後記

◇本誌がスタートしたのが2016年4月、いよいよ10年目に入ります。よく続いているなど、半分呆れている。◇桜の季節ですね。ぐんぐん気温が上がっています。木次線ストロールの取材予定が2週目。桜が散っている可能性が高いですね。奇跡よ起これ!

◇音谷健郎さんの連載の単行本化、いま作業を進めているのですが、「倉田百三」の漫画を描いた岩崎健二さんの連絡先を探しています。ご協力をお願いします。◇開店当初は火曜日だけが休日だったのですが、今は週休2日。週休3日は理想から大きく後退ですが、楽しみにしている自分もいます。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052 (赤川)

e-mail: touzin@nifty.com

誌面デザイン: ROUTE183

協賛: 九日市愛好会

第282回

くんちいち

ひょうばあ九日市

◇ イベント情報 ◇

★着物で春の九日市を散策してみませんか？ 着物セットをレンタル、着付けもお手伝いしますので未経験者も安心です。



着物レンタル (着付けあり)

場所：楽笑座 時間：9時～12時

料金：500円

※クラフトショップから素敵なプレゼントがあります。

4月9日(水)

9:00～13:00

TOPICS (開催場所は裏面の地図参照)

★市民ギャラリー「アート多愛夢」
4月8日(火)～10日(木) 10時～15時
「色えんぴつ画・木工作品展」

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

★カフェクラウド タピオカドリンク 100円引き
九日市特製ピタサンド600円

★どら書房、休憩室(漫画ルーム)あります！ 無料です。

★あなたも自分のお店を出してみませんか？ (出店者募集中！)

* 出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円～
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10 (楽笑座内)

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

